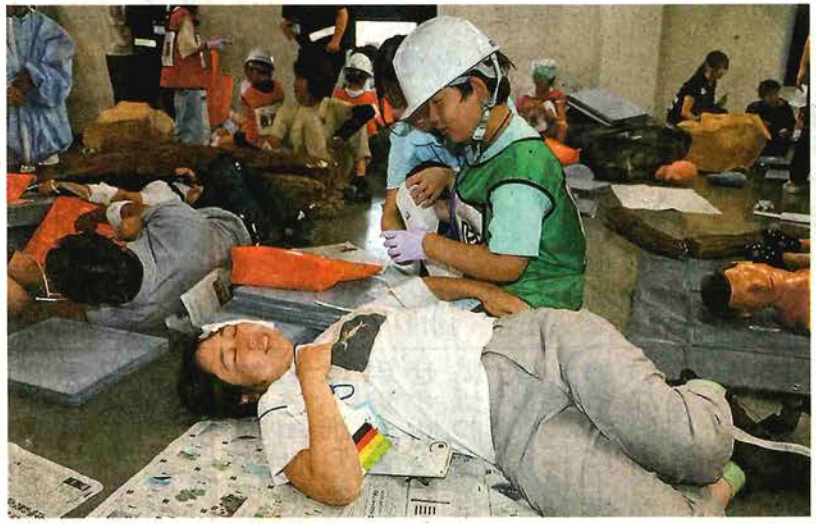
2026年8月19日(水) 山陽新聞 [都市圏]

小中学生ら医療に理解

倉敷・川崎医科大教室

応急処置など130人体験



患者役の保護者の腕に包帯を巻く小学生ら

川崎医科大現代医学教育博物館（倉敷市松島）で18日、「夏の子ども体験教室」が開かれた。県内外の小中学生と保護者約130人が参加し、地震で負傷した人を手当てする「応急処置」の疑似体験などを通じて医療の仕事に理解を深めた。

同大付属病院の医師らを講師に、応急処置、顕微鏡で体の秘密に迫る「からだのしくみ」、電気メスで鶏肉を切る「外科医」、カルテを作る「看護師」の4コースに分かれて活動。応急処置では患者役の保護者に「大丈夫ですか」と声をかけ意識の有無を確認したり、傷口に包帯を巻いたりした。

岡山市立福田小1年青木友香さん(7)は「うまく包帯を巻けてうれしかった。将来はお医者さんになって災害でけがした人を助けたい」と話した。

教室は同大が2009年に始め17回目。19日も事前申込者を対象に行う。（小野祐香）